施工完了チェックシート

確認日	年　月　日
確認者	

1□から6□を チェック

◆施工完了後は、必ず以下のポイントをチェックしてください◆

1□ クイックファスナーを正しく取り付けていますか

●クイックファスナーが確実に固定されていること。
●給水ホースが回らないように持ち、クイックファスナーが軽く回ること。
●給水ホースを引っ張っても抜けないこと。

※クイックファスナーが正しく取り付けされていないと水漏れが発生するおそれがあります。
再度、取り付け手順に従ってください。

2□ 止水栓を開けていますか

●水道の元栓を閉めた場合は開けてください。
●十分開いていないと洗浄強さが得られないことがあります。

3□ 水漏れしていませんか

●水漏れがないか必ず確認してください。
●水漏れしている場合は、必ず止水栓を閉め、再度正しく接続してください。

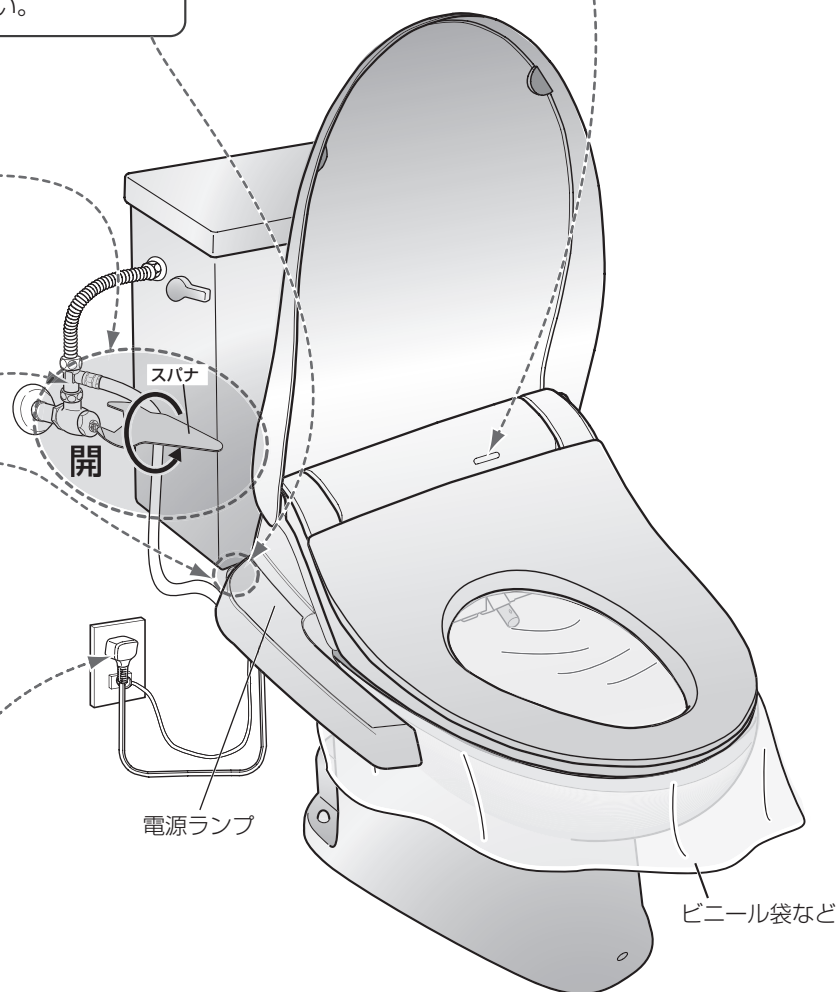
4□ 電源は入っていますか

●電源ランプは点灯していますか。

5□ 着座センサーは正常に働きますか

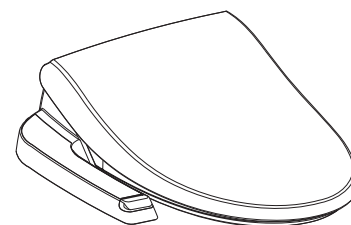
●着座センサーを手で覆うとノズル付近から水が便器に流れ落ちます。
●着座しないと洗浄水が上向きに出ないようになっています。ビニール袋などを便器にはさみ、着座センサーを手で覆ったまま、おしり または ビデ を押し、洗浄水が上に出ることを確認してください。

スパナ
開
電源ランプ
ビニール袋など

お願い ●試運転は、必ず行ってください。（16ページ）

配管方法などはイラストと異なる場合があります。

パナソニック株式会社　ランドリー・クリーナービジネスユニット

〒525-8555　滋賀県草津市野路東2丁目3番1-2号

DL949A-DUCP1
CS0511-1091

Panasonic®

設置工事説明書

温水洗浄便座 家庭用

品番　DL-UE20

ページ

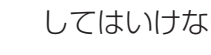
安全な工事をするために、この設置工事説明書に基づいて設置してください。
工事終了後は、取扱説明書、保証書とともに大切に保管し、必要なときにお読みください。

パナソニックホームページで
取り付け手順を動画で公開しています。
panasonic.jp/toilet/

19491-14312

安全上のご注意

人への危害、財産の損害を防止するため、必ずお守りいただくことを説明しています。

■ **誤った使い方をしたときに生じる危害や損害の程度を区分して、説明しています。**

⚠警告	「死亡や重傷を負うおそれがある内容」です。
⚠注意	「軽傷を負うことや、財産の損害が発生するおそれがある内容」です。

■ **お守りいただく内容を次の図記号で説明しています。**

	してはいけない内容です。
	実行しなければならない内容です。

⚠警告

アース線接続

D種接地工事を行う
アース工事がされていないと、漏電のときに感電する原因。

電源プラグは根元まで確実に差し込む
差し込みが不完全ですと、感電や発熱による火災の原因。傷んだプラグ・ゆるんだコンセントは使用しない。

設置工事は、設置工事説明書に従って確実に行う
説明書に従って行わないと、水漏れ、火災、感電の原因。

設置工事部品は、必ず付属部品および指定の部品を使用する
指定の部品を使用しないと、水漏れ、火災、感電の原因。

電気工事は､内線規程に従って施工する
内線規程に従わないと､火災､感電の原因。

定格15 A・交流100 Vのコンセントを単独で使う
他の機器と併用すると、発熱による火災の原因。

コンセントのアース端子にアース線を取り付ける
アース工事がされていないと、漏電のときに感電する原因。

水場使用禁止

バスルーム内など湿気の多い場所には設置しない
感電や火災の原因。

電源コード、電源プラグを破損するようなことはしない
傷んだまま使用すると、感電やショートして火災の原因。

ぬれた手で、電源プラグの抜き差しはしない
感電の原因。

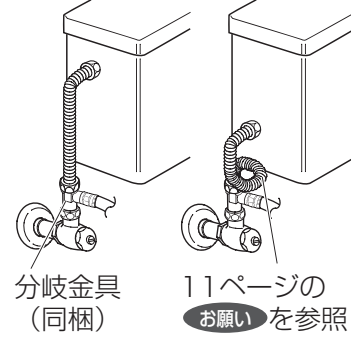
上水道以外には接続しない
ぼうこう炎や皮膚の炎症などを起こす原因。腐食や異物付着による水漏れの原因。

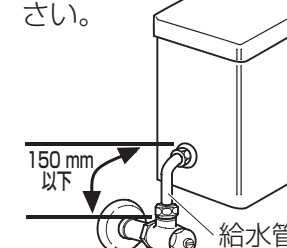
⚠注意

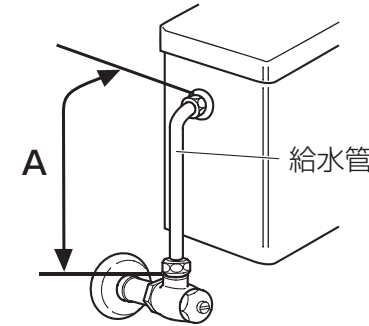
水道工事などは、市町村の水道条例に基づいて行う
条例に基づいて行わないと、水漏れの原因。

移動や設置時、本体を持つ
便座・便ふたを持つと本体から外れ、けがをする原因。

設置の前に

お願い
- 本体の取り付けが完了するまで電源プラグをコンセントに差し込まない。故障の原因となります。
- 本体内の残水が凍結している場合は、本体を暖かい部屋に放置し、残水がとけてから設置する。
- **必ず同梱の分岐金具をご使用ください。**

お知らせ
- **この商品は水道水を使って検査をしています。商品を取り出す際に多少の水滴が出ることがありますが、故障ではありません。**
- 使用水圧範囲は49～735 kPa {0.5～7.5 kgf/cm^2} です。
- 便器の種類によっては、便座脚ゴムが便器の上に載らず、がたつく場合があります。

■給水管の長さの確認

同梱のフレキシブルパイプの長さは300 mmです。
フレキシブルパイプは切断しないでください。
右図の**A寸法**が、約150～330 mmの場合は、取り付けできます。
上記以外で②③の場合は、**部材購入**が必要です。

同梱のフレキシブルパイプ（給水管）

①A寸法が約150～330 mmの場合の設置例

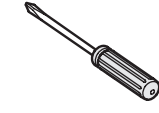
②給水管が短い場合または外れない場合
A寸法が約150 mm以下ではフレキシブルパイプが曲げられず、取り付けられません。この場合、9ページを参照してください。

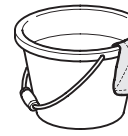
③A寸法が約150～330 mm以外の場合
別売品またはホームセンターなどで市販品を購入してください。

	フレキシブルパイプの長さ	品番	本体希望小売価格
別売品	250 mm	☆AD-HS25B	630円（税抜600円）
	350 mm	☆AD-HS35B	756円（税抜720円）
	400 mm	☆AD-HS40B	809円（税抜770円）
市販品	400 mm以上	A寸法の市販品を購入してください。	

☆は、システム部材開発センター扱い（別売品）です。
価格は2011年8月現在の希望小売価格です。
価格・品番は変更される場合があります。

■ご準備いただくもの

メジャー

プラス
ドライバー

モンキー
レンチ

バケツ・ぞうきん

各部の名前と同梱部品の確認

設置方法によっては、パッキンなど、使用しない部品があります。

①フレキシブルパイプ(給水管)
(長さ:300 mm)

② 給水ホース分岐金具付
(長さ:950 mm)

分岐金具

給水ホース

③パッキンセット
(②の部品袋に同梱)

パッキン3個

スリップワッシャー1個(白)
(11ページの既設の給水管を使用する場合のみ使用

ロータンク

便ふた

本体

着座センサー

アース線
(本体背面)

暖房便座

分岐金具

止水栓

電源プラグ

ECO NAVIランプ
(エコナビ)

漏電テストスイッチ

電源ランプ

便座あたためランプ

ひとセンサー

【パッキン使用箇所】

パッキン厚さ

2 mm×1 (青)　4 mm×1 (黒)　2.5 mm×1 (黒)

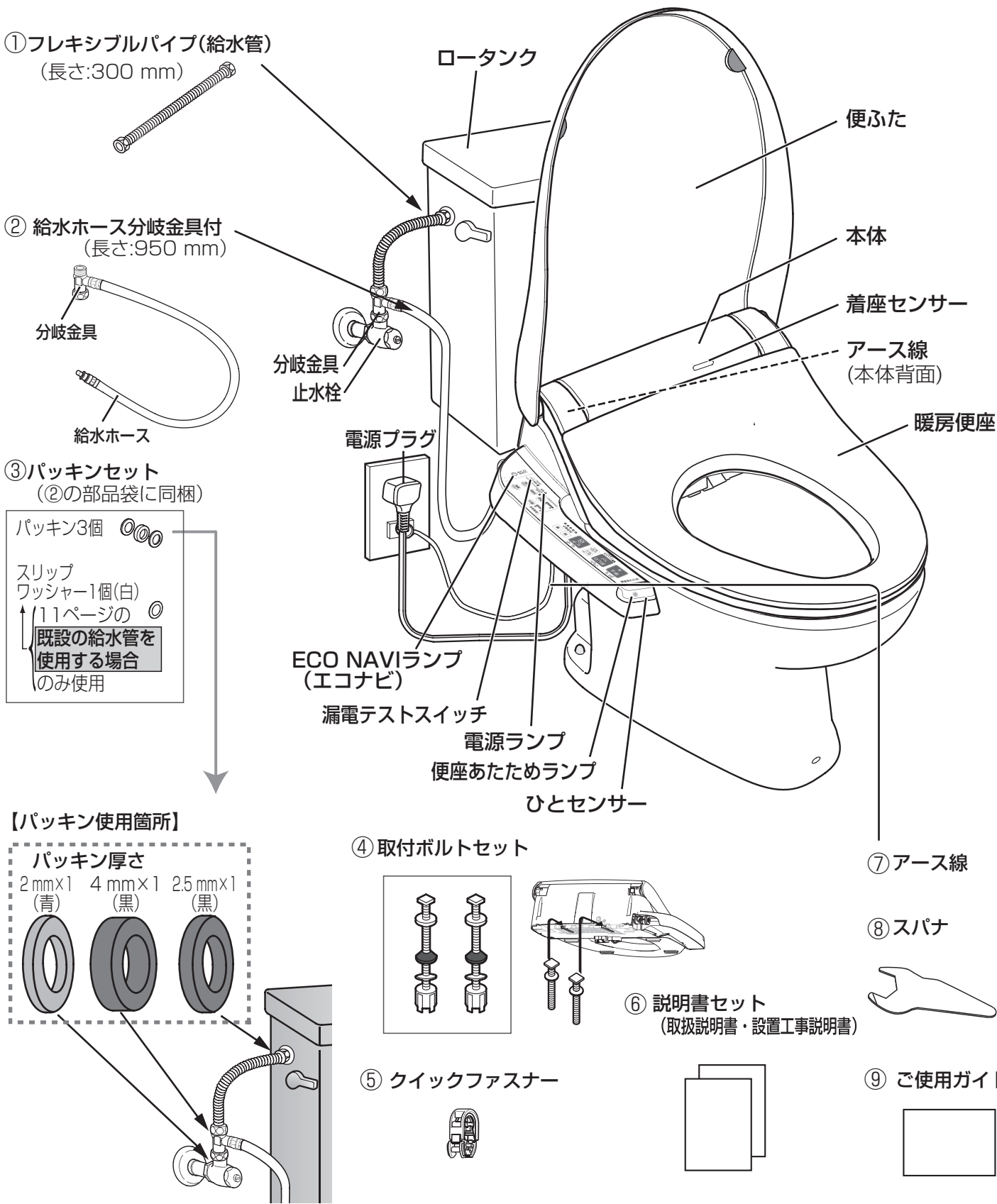
④取付ボルトセット

⑤ クイックファスナー

⑥ 説明書セット
(取扱説明書・設置工事説明書)

⑦アース線

⑧スパナ

⑨ ご使用ガイド

【同梱部品】 同梱部品をチェックしてください。 ☑チェック

番号	部品名	数量	チェック欄
①	給水ホース分岐金具付	1	□
②	フレキシブルパイプ(給水管)	1	□
③	パッキンセット (パッキン 薄い:黒2.5 mm厚さ×1 パッキン 青2 mm厚さ×1 パッキン 厚い:黒4 mm厚さ×1 スリップワッシャー (白)×1)	1	□ (②の部品袋に同梱)
④	取付ボルトセット	1	□
⑤	クイックファスナー	1	□
⑥	説明書セット (取扱説明書 / 設置工事説明書)	1	□
⑦	アース線(本体接続済み)	1	□
⑧	スパナ	1	□
⑨	ご使用ガイド	1	□

【別売品】 (サービスルート扱い)

記号	部品名	部品品番 ※	数量
Ⓐ	別売分岐水栓・キャップセット (9ページ) (分岐水栓 キャップカバー キャップA パッキン大 :黒2.5 mm厚さ×1 説明書)	ADL531A-B4JS	1

※部品品番は予告なく変更することがありますのでご了承ください。

別売品のⒶは、配管の状態によって必要な場合があります。販売店でご購入ください。

⚠警告

同梱のパッキンを使用する

他のパッキンを使用すると接続部が破損し、水漏れするおそれあり。

設置工事の流れ

止水栓を閉める
8ページ
止水栓がある場合
※床面に止水栓がある場合もあります。
8ページ
止水栓がない場合
フラッシュバルブの場合
専門業者に依頼する
閉
水道元栓
給水ホースの分岐金具を取り付ける
初めて温水洗浄便座を取り付ける場合
9ページ
(給水管が短い場合)
9ページ
既設の温水洗浄便座から取り替える場合
(既設の分岐水栓が右図タイプ)
10ページ
●専門業者に依頼する
(既設の分岐金具が右図タイプ)
11ページ
12ページ
給水ホースを本体に取り付ける
本体を取り付ける
13ページ
下からナット締めができる便器の場合
13ページ
下からナット締めができない便器の場合
14ページ
アース線の接続
15ページ
止水栓を開ける
16ページ
試運転
裏表紙
施工完了チェックシートで確認する
設置

止水栓を閉める

■止水栓がある場合

●マイナス溝タイプ
●ハンドルタイプ

止水栓を閉めた後、ロータンクの水を流し切ってください。

9～11ページ　分岐金具を取り付ける

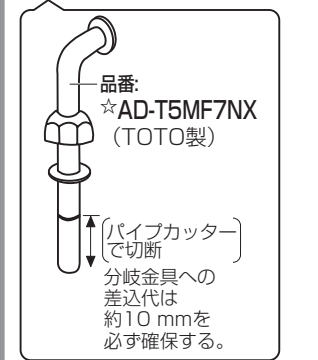
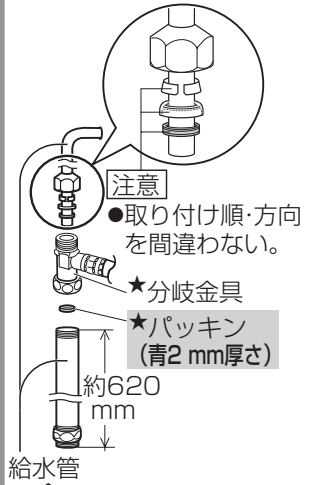
■止水栓がない場合 → 設置については専門業者に依頼してください

分岐金具を取り付ける

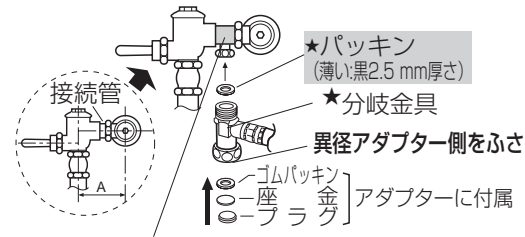
〈分岐金具の締め付け方〉→9ページ参照

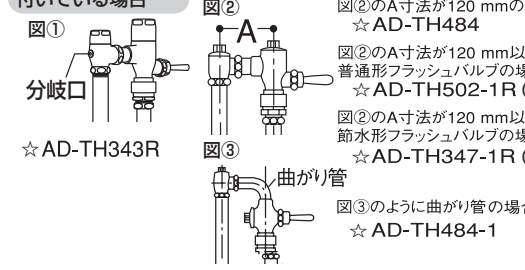
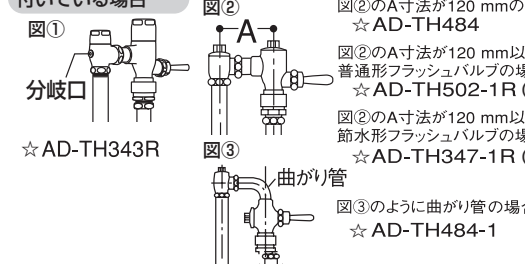
★は、同梱部品です。
☆は、システム部材開発センター扱い(別売品)です。
㋚は、サービスルート扱い(別売品)です。

寒冷地用の給水管(止水栓なし)から給水する場合

1. 水道の元栓を閉める
2. 給水管に分岐金具を取り付ける

フラッシュバルブから本体へ給水する場合

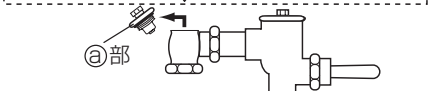
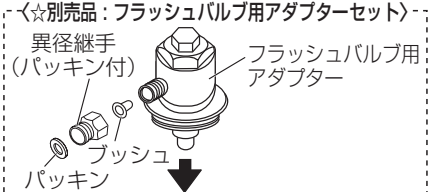
TOTO製の場合

1. 水道の元栓を閉める
2. 分岐金具を取り付ける
   - ●右図のような取付口がある場合、アダプターは不要です。
   - ●分岐口有りの場合は、別売品のアダプターを取り付ける。
   - ●分岐口無しの場合は、接続管を取り付ける。
     1. フラッシュバルブ本体から接続管を外す。
     2. フラッシュバルブ用アダプター(別売品)を取り付ける。
     3. 分岐金具の異径アダプター側をふさぐ。
     4. アダプターに分岐金具を接続する。

〈☆別売品：フラッシュバルブ用アダプター〉
フラッシュバルブの形状などにより、使用するアダプターが異なります。

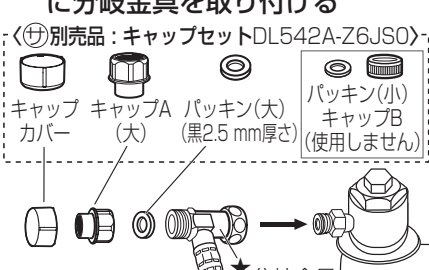
フラッシュバルブの止水栓に、分岐口が付いている場合	フラッシュバルブの止水栓に、分岐口が無い場合
図① 分岐口 ☆AD-TH343R	図②のA寸法が120 mmの場合 ☆AD-TH484 図②のA寸法が120 mm以外で、普通形フラッシュバルブの場合 ☆AD-TH502-1R（1S） 図②のA寸法が120 mm以外で、節水形フラッシュバルブの場合 ☆AD-TH347-1R（1S） 図③ 曲がり管 図③のように曲がり管の場合 ☆AD-TH484-1

INAX製の場合

1. 水道の元栓を閉める
2. ⓐ部を外す
3. フラッシュバルブ用アダプターを取り付ける

65年～78年7月までの普通型
☆AD-K014SWS（INAX製）
78年8月以降の普通型
☆AD-K012SWS（INAX製）
90年6月以降の新型節水用
☆AD-K011SWS（INAX製）

〈☆別売品：フラッシュバルブ用アダプターセット〉

4. フラッシュバルブ用アダプターに分岐金具を取り付ける

〈㋚別売品：キャップセットDL542A-Z6JS0〉

詳しい取り付け方法は、別売品の説明書を参照してください

◎取付後、水道の元栓を開けてください。

12ページ　給水ホースを本体に取り付ける

初めて温水洗浄便座を取り付ける場合

分岐金具(給水ホース付き)を取り付ける

●ロータンクの下からの給水の場合は、止水栓と給水ホースの間に分岐金具を取り付けてください。
（フレキシブルパイプは使用しません）

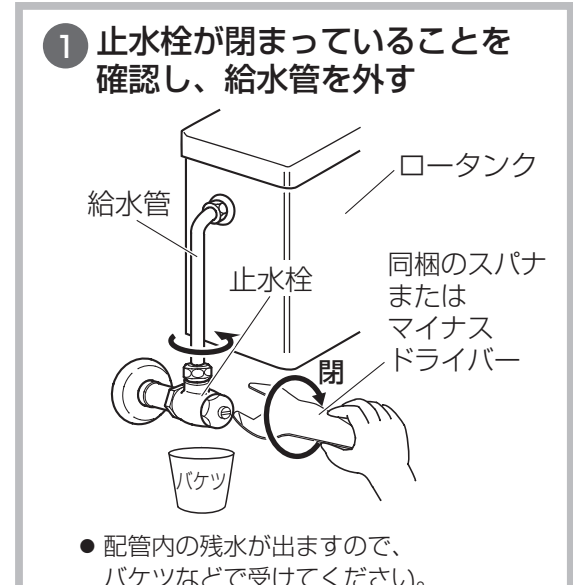
★は、同梱部品です。
㋚は、サービスルート扱い（別売品）です。

1 止水栓が閉まっていることを確認し、給水管を外す

● 配管内の残水が出ますので、バケツなどで受けてください。

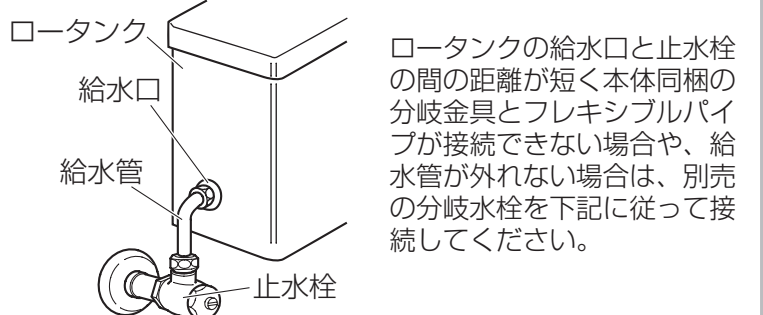
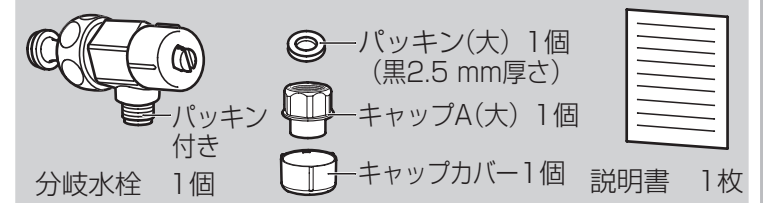
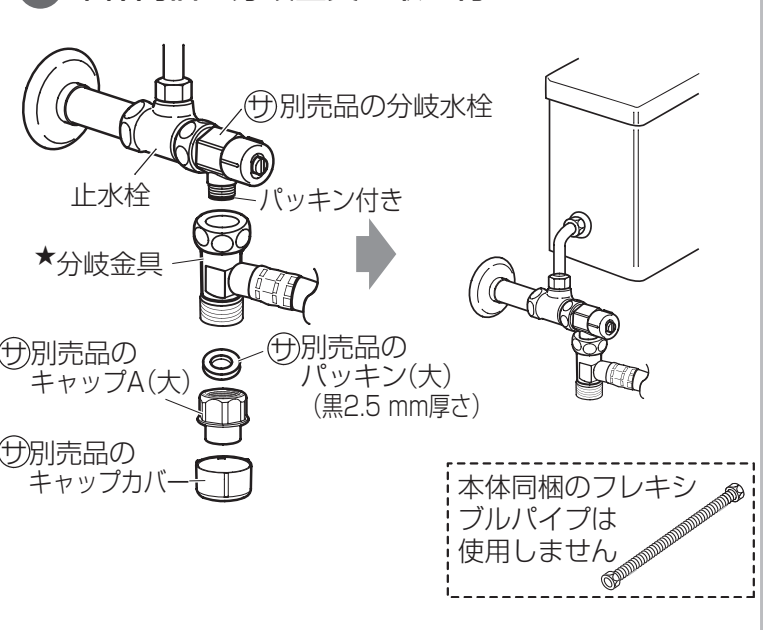
2 分岐金具を止水栓に、取り付ける

〈分岐金具の締め付け方〉

指定場所以外を工具で固定したり、給水ホースを持って締め付けない

11ページ　分岐金具を取り付ける　2 給水管の取り付け

給水管が短い場合、給水管が外れない場合

下記の別売品を販売店で購入してください。

ロータンクの給水口と止水栓の間の距離が短く本体同梱の分岐金具とフレキシブルパイプが接続できない場合や、給水管が外れない場合は、別売の分岐水栓を下記に従って接続してください。

〈別売品 Ⓐ〉別売分岐水栓・キャップセット
（品番：ADL531A-B4JS）

1. 水道の元栓を閉める
2. 別売品の分岐水栓を取り付ける
3. 本体同梱の分岐金具を取り付ける

詳しい取り付け方法は、別売品の説明書を参照してください

12ページ　給水ホースを本体に取り付ける

設置

既設の温水洗浄便座から取り替える場合

分岐金具(給水ホース付き)を取り付ける

11ページ　分岐金具を取り付ける　❷ 給水管の取り付け

★は、同梱部品です。

❷ 給水管の取り付け

●既に給水管がフレキシブルパイプや給水ホースで接続されている場合は、そのまま使用できます。

同梱のフレキシブルパイプを使用する場合

同梱のフレキシブルパイプを使用し、接続する。

お願い

フレキシブルパイプは
- ●曲げ過ぎない
- ●何度も曲げ直さない（折れることがあります）
- ●切断しない
- ●長さが合わないときは、別売品または、ホームセンターなどで市販品を購入してください。

既設の給水管を使用する場合

- ●分岐金具側に給水管を接続し、ロータンク給水口にあうような長さに給水管を切断。（フレア加工している場合は、切断長さに注意）
- ●分岐金具への差込代は約10 mmを必ず確保する。

給水管

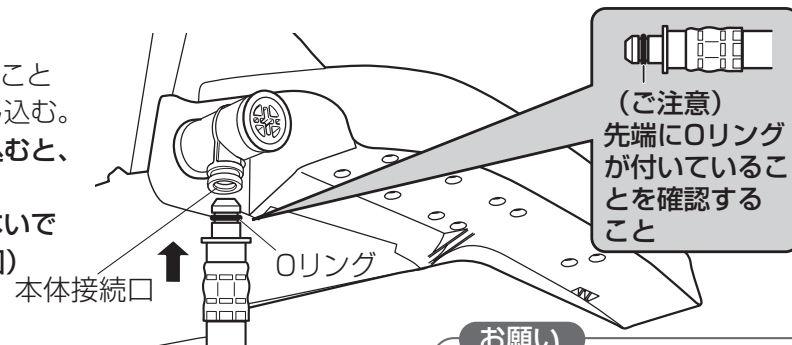
パイプカッター

12ページ　給水ホースを本体に取り付ける

給水ホースを本体に取り付ける

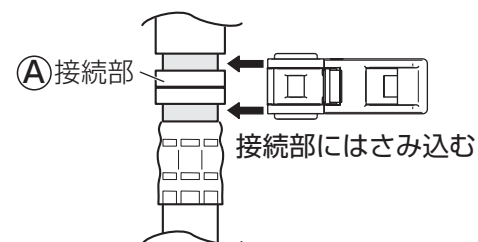
❶ 本体への接続

1.給水ホースのOリング部にゴミがないことを確認し、本体接続口に**まっすぐ**差し込む。
（ご注意）給水ホースをねじって差し込むと、Oリングが切れるおそれがあります。
（お願い）既設の給水ホースは使用しないでください。（劣化により水漏れの原因）

本体接続口
Oリング
（ご注意）
先端にOリングが付いていることを確認すること

2.クイックファスナーを給水ホースと本体接続部に確実に奥まで差し込む。
（「パチッ」と音がするまで差し込む）

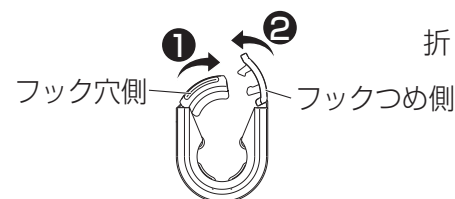
Ⓐ接続部
接続部にはさみ込む
クイックファスナー

お願い
- フックが閉じないときは、Ⓐ接続部に確実に奥まで差し込まれていないため、再度クイックファスナーを差し込み直してください。

ご注意
- 給水ホースは切断しない
- 給水ホースに刃物など鋭利なもので傷を付けない
- 本体接続口にOリングが咬み込まないようにまっすぐに差し込む

3.フックを確実に固定する
❶フック穴側を折り曲げる
❷フックつめ側をフック穴側に折り曲げ固定する
（「パチッ」と音がするまで固定する）

❶ ❷
フック穴側
フックつめ側
折り曲げる
見やすい位置に回してフックを固定する

悪い接続例
※フックが確実に固定されていないとクイックファスナーが外れ、重大な水漏れの原因となります。

フックが固定されていない

4.給水ホースが回らないように持ってクイックファスナーが軽く回ることを確認する。
※軽く回らない場合は、正しい位置に取り付けされていません。

軽く回ること

お知らせ
給水ホースが短い場合は、**別売品**を販売店でご購入してください。

1300 mm用	AD-DL531-13
2500 mm用	AD-DL531-25

別売品は、給水ホースと分岐金具が別々になっています。分岐金具側もクイックファスナーで接続するようになっています。

❷ 必ず確認

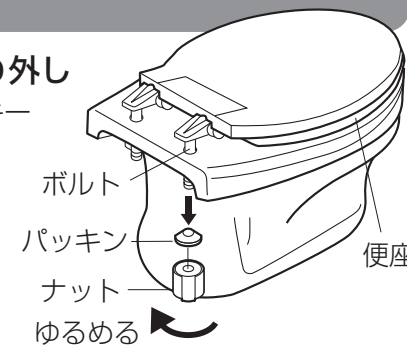
- **クイックファスナーが確実に固定されているか確認してください。**
- **給水ホースを引っ張って、本体接続口から抜けないことを確認してください。**

本体接続口
〈横から見た図〉
給水ホース
クイックファスナー
接続部の方向を変更できます
(90°まで)
少し力を入れて方向を変えてください。

本体を取り付ける

下からナット締めができる便器の場合

❶ 既設便座の取り外し

1.ナットをモンキーレンチなどでゆるめる。
2.ナットとパッキンを外し便座を取り外す。

（ナットがさびてゆるまないときは）
- 市販のねじゆるめスプレー剤などでゆるめる。
- 取れないときは、金のこでボルトを切断する。

❷ 本体の取り付け（同梱の取付ボルトセット使用）

1. 取付ボルトからナット・樹脂ワッシャー・パッキンBを外す。
2. 取付ボルトの頭を本体裏面にある本体固定板の溝に差し込む。
3. パッキンAを上に動かして、本体固定板と取付ボルトを仮固定する。
4. 本体を便器に取り付け、取付ボルトにパッキンB・樹脂ワッシャーの順で取り付けた後、ナットを手でしっかり締め付ける。

外す

（お願い）工具でナットを締め付けないでください。

本体が便器から脱着できる構造のため、少しがたつきが生じることがありますが異常ではありません。

取付ボルトが長すぎるときは
- 金のこなどで適当な長さに切断する。

■便ふたの後部がロータンクにすれるまたは強く当たる場合
⇒すれない程度に少し前に引き出して取り付ける。
■便器によって便座が倒れやすい場合
⇒倒れない程度に少し前に引き出して取り付ける。

本体裏面のノズル収納部が便器に乗り上げないように注意する。

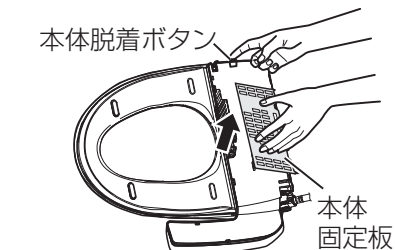
便ふたの後部
ノズル収納部
少し前に引き出して取り付ける

下からナット締めができない便器の場合

❶ 既設便座の取り外し

固定ねじ2本をゆるめ、取り外す。
- 取り外した部品は、取り付け時に使用します。

❷ 本体固定板の取り外し

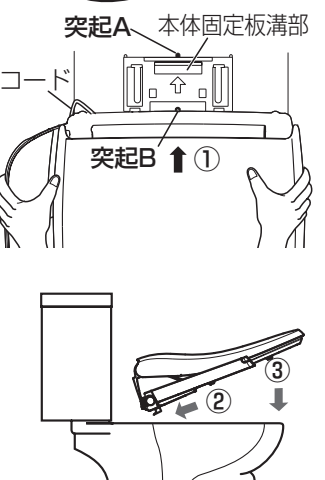
本体裏面より本体固定板を取り外す。

- 本体脱着ボタンを押しながら本体固定板を持ち上げる。

❸ 本体固定板の取り付け（既設の部品を使用）

位置を決め、取り外した既設部品を使用し、本体固定板を便器に取り付ける。

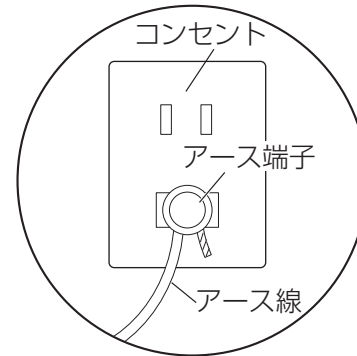
❹ 本体の取り付け

①右図のように突起Aに突起Bを合わせる。
②手前を浮かせた状態で斜めに差し込む。
③「カチッ」と音がするまで上から押す。
- コードを本体と便器の間にはさみ込まないようにしてください。

本体を便器に設置後、本体を軽く持ち上げ、しっかりと固定されていることを確認してください。

取付

アース線の接続

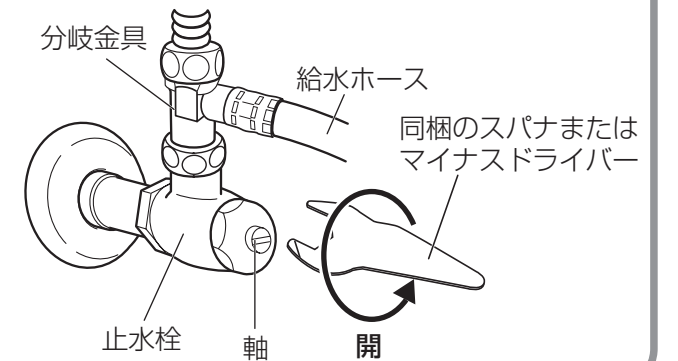
必ずコンセント側へ接続してください

（アース付きコンセントでない場合は、アース工事を販売店にご依頼ください）

上図はアース付きコンセントの一例です。

止水栓を開ける

各接続部がきっちりと接続されていることを確認してください。

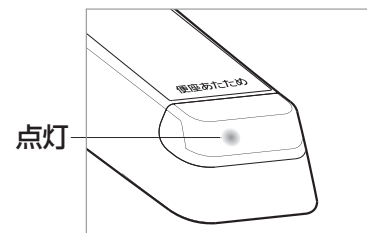
- 水道の元栓を閉めた場合は開けてください。
- 手洗いボールから水があふれたり、飛び散らない程度に止水栓の軸をゆっくり開けてください。
- 十分開いていないと洗浄強さが得られないことがあります。

取付

試運転

試運転の前に… 水道の元栓、止水栓が開いていることを確認してください。（十分開いていないと洗浄強さが得られないことがあります）
給水接続部から水漏れがないことを確認してください。

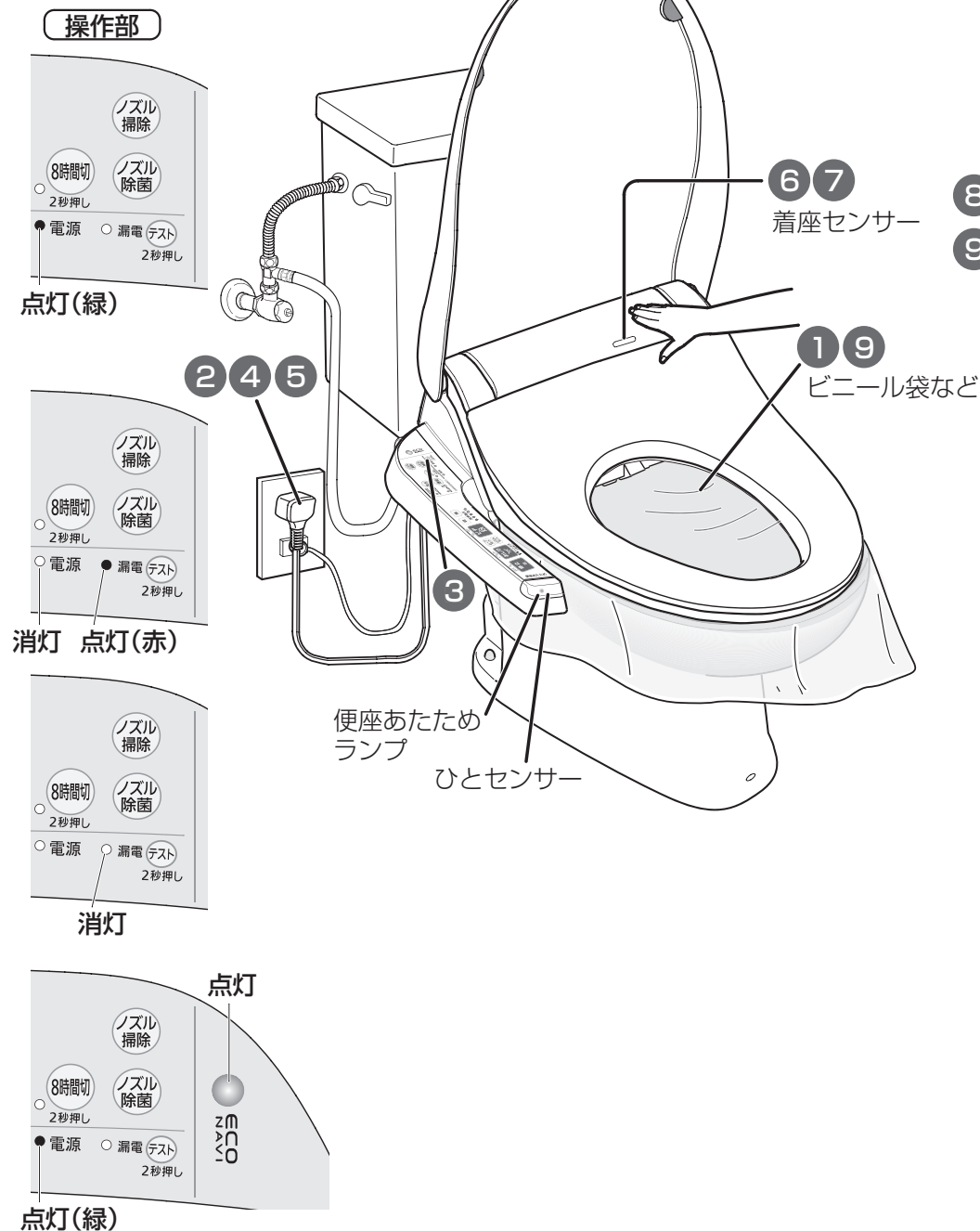
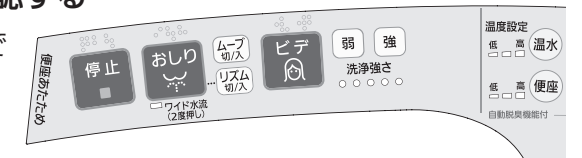
手　順

❶ **本体梱包用のビニール袋などをはさむ**
（便座と便器の間）

❷ **電源プラグを差し込む**
- 電源ランプが約10秒間点滅後点灯に変わります。
- 便座あたためランプが点滅して点灯に変わります。（便座温度が約30 ℃以上の場合は、すぐに点灯）

❸ **漏電テストスイッチを2秒以上押す**
漏電検知機能が作動し、電源が切れます。
（漏電ランプ点灯、電源ランプ消灯）

❹ **電源プラグを抜く**
- 4～5秒待って、漏電ランプが消灯することを確認する。

❺ **電源プラグを差す**
- 電源ランプが約10秒間点滅後点灯に変わります。
- 便座あたためランプが点滅して点灯に変わります。（便座温度が約30 ℃以上の場合は、すぐに点灯）
- 便座に手を当て、あたたまっていることを確認する。
- ECO NAVIランプが点灯。

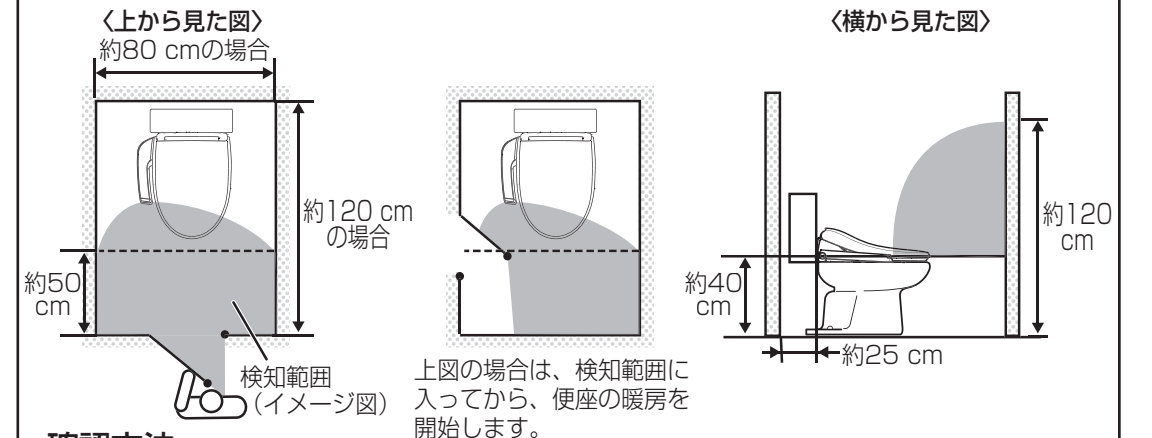
❻ **着座センサーを手で覆う**
- ノズル付近から水が便器に流れ落ちます。
- 着座センサーが作動し脱臭が始まります。

❼ **そのまま手で覆いながら、おしり または ビデ を押しビニール袋の上から手をあて温水が出ることを確認する**
（温水が出ない場合は、温水温度スイッチで設定温度を切り換えてください）
- 止めるときは 停止 を押す。
- 着座センサーから手を離すと、ノズルが戻りノズルを洗浄します。

❽ **取扱説明書に従って、おしり・ビデ洗浄など機能の確認をする**

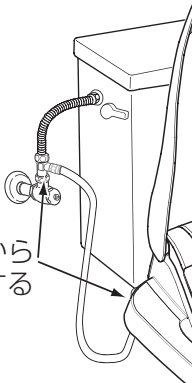
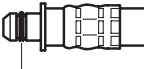
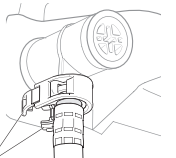
❾ **ビニール袋を外す**

ひとセンサーについて

■ひとセンサーが人（発熱体）の動きを検知すると、便座の瞬間暖房を自動で行います。
冬場など室温が低いときは、便座が約30 ℃になるまで約5秒かかります。

検知範囲の目安

■人が検知範囲に入ってから便座の暖房を開始します。

確認方法

①便ふたを開けて一旦、トイレから外に出る。（便座の温度を下げるため）
②3分以上経過後、トイレに入り、便座あたためランプが点滅して点灯に変わることを確認する。（ただし、便座の温度が約30 ℃以上の場合は点滅せずに点灯）

お知らせ
- 直射日光の当たるところに取り付けた場合、カーテンや窓の外の木々の揺れで、直射日光がさえぎられると、誤作動することがあります。
- ひとセンサーが人を検知すると、便座の暖房を開始します。室温が30 ℃を超えたり直射日光が当たったりすると作動しない場合があります。（人と周囲の温度の差が少ないときは熱の変化を検知しにくいため）
- トイレで暖房器具などを使用すると、ひとセンサーが温風の熱を検知して誤作動する場合があります。

こんなときは

現　象	考えられる原因と処置方法		参照ページ
温水温度ランプが全点滅する（低 高 温水）	● 止水栓が開になっていない ● 止水栓を開にする前に電源プラグをコンセントに差し込んだ	止水栓を開にし、電源プラグを差し直し、その後、再度試運転を行う	15 16
洗浄水が出ない 洗浄強さが弱い	水道水フィルター（水抜き栓）がつまっている	掃除する	取扱説明書
	水道の元栓が全開になっていない	水道の元栓を全開にする	10
	止水栓が開になっていない	止水栓を開にする	15
	ロータンクに給水中	水が貯まるのを待つ	－
ロータンクの水が入らない、止まらない	ロータンク内の浮子がゆがんでいる	浮子がゆがまないように袋ナットを締め付け直す	11
手洗いボールから水はねする	水圧が高く給水量が多い	止水栓を適量に絞る	15
接続部から水漏れする	給水ホース先端のOリングにゴミが付着（Oリング）	Oリングのゴミを取り除く	12
	ナットの締め付け力が不足	増し締めする	－
	締め過ぎによるパッキンなどのずれ	ずれをなくす	11
	クイックファスナーの差し込み不足やずれ（フックが固定されていない）	確実に固定する（軽く回ること）	12
電源が入らない	テストスイッチを押したなどで漏電検知機能が作動（漏電ランプが点灯）（消灯　点灯）	電源プラグをコンセントから抜き、漏電ランプが消灯してから電源プラグを差し込む（電源プラグ）	16
ひとセンサーが検知しない	人がいても体の動きがない	体を動かしてください（センサーは熱の変化を検知する）	17

工事後の注意　凍結するおそれのある場合や長期間（1週間以上）使用しない場合は、水抜きをしてください（取扱説明書「凍結予防・長期間使用しないときは」参照）

メモ欄

確認